



創立者聖マグダレナ・ソフィア・バラ列聖一〇〇周年の一年

二〇二五年は聖マグダレナ・ソフィア列聖一〇〇周年という、特別な年でした。JASH顧問であり、『ソフィアと旅する』の翻訳者でもあるシスター田中玲子に、次ページからは各姉妹校同窓会会長に、マザーバラへの想いをお寄せいただきました。

昨年には中高生のためのパネルディスカッションへの参加や初等科の朝礼のお話しの準備のために、聖マグダレナ・ソフィアに関していろいろ読んだり考えたりする機会があり、ソフィアとの親しさが増した気がしています。そのようなきっかけの二つは、聖心会の第十三代総長、シスターヘレンマクロクリンの一九八五年五月十七日付のお手紙の中に紹介されている次のような出来事です。

その年の二月、シスターヘレンは一週間の間に別々の土地に住む三人の人から、そのうちの二人は聖心会のシスターで、もう一人は卒業生だそうですが、それぞれの中で聖マグダレナ・ソフィアが、「あなた方は私に十分に頼んでいない」と言われた」というのです。フランス語の「On ne me demande pas assez」のニアンスはよくわかりませんが、「もっといろいろな頼んで呉ればいいのに」というような感じではないでしょうか。

私たちの共通の母である聖マグダレナ・ソフィアは今も確かに私たちを心に掛け、祈りを取り次いで助けてくださっているのです。私はいつも生徒や学生、卒業生に神様には何でもお話しして、どんなことでもお願いしたり相談していいのですと言ってきましたが、今回この手紙を読み直してからは、聖マグダレナ・ソフィアにも今までよりもっとお願いやご相談をしています。

そして「あのお言葉」はどこから？

日本の聖心の卒業生の記憶に残っている聖マグダレ



「聖心の子どもは一人て天国へ行ってはいけません」のお言葉と共に、第2回「JASHのつどい」ではご絵を配布しました



グロリア文庫『聖マグダレナ・ソフィア・バラ』(絶版) 聖心女子学院著 中央出版社(1965年)

ナ・ソフィアのお言葉のナンバーワンは、「聖心の子どもは一人て天国に行つてはいけません」のようです。

昨年の春、第二回「JASHのつどい」に向けて準備をしている役員から、その原文のことを聞かれ、聖心の資料室にある何冊かの「お言葉集」を見ましたがどれも載っていませんでした。

ローマの本部でアーカイブスの整理をしたシスターにも尋ねましたが、いろいろ当たってみただけで、見つからないというお返事でした。続いてニュージーランドのそういうことに詳しいシスターたちにも尋ねました

が、聞いたことがあるような気もするが、出典は分からないというお返事でした。

日本のシスターたちは皆が聞いたことがある、教えたことがあると言うのに、外国人は知らないのは不思議だと思ひ、日本の資料室のシスター山下まち子に相談し探していただきました。その結果、大昔、私たちが読んだことのあるグロリア文庫『聖マグダレナ・ソフィア・バラ』の短い伝記の中の、学校で働くシスターたちにしたお話の中にそれを見つけました。

子どもたちに「学校でならつたことが生役に立つようによく教えてください。イエズスの聖心を知り愛することをおぼえこむように、気をつけてください」と言うくぐりでした。昭和四十年に中央出版社から刊行されたこの本は、聖心女子学院著とあるだけで、著者の名前も分かりません。



青葉舎▶

著者の名前も分かりません。

『ソフィアと旅する』の改訂版が出ました。『聖マグダレナ・ソフィア・バラのメッセージ』ソフィアと共に』ドローレス・アレイクサンドレ著 田中玲子訳 青葉舎(2026年)「蒔かれた種は」と題した書き下ろしも収録



聖心会JASH顧問シスター 田中玲子 (み44・宮13)

マザーバラ News

News 1

列福記念の祝祭歌 第2回「JASHのつどい」開催

小林聖心校歌の原曲は、聖マグダレナ・ソフィアの列福記念に作られた曲です。そこに秘められた物語は、日本における聖心開学の歴史とも深く繋がっています。そんな様々な歴史にも思いを馳せながら、2025年10月4日(土)に第2回「JASHのつどい」を開催。大学お聖堂で懐かしい校歌・聖歌の合唱、パーラーで茶話会、バザー、展示「札幌聖心62年のあゆみ」と、和やかに旧交を温めた1日となりました。約250名の同窓生にご参加いただきました。

こちらから、アルバム、音源、校歌集をご覧ください



語学校・ISSH アラムナイ

In 2025, we marked the centenary of the canonization of St. Madeleine Sophie Barat, and the International School of the Sacred Heart celebrated this milestone with several activities. In May, students joined other Sacred Heart schools in Japan for the RSCJ liturgy at the Campus Chapel, and later the school held its own centennial liturgy, where each one received a commemorative medal.

In November, they joined other Sacred Heart schools in Japan for a video conference with Sr. Claire Castaing, Superior General of the Society of the Sacred Heart, and were given the opportunity to revisit St. Madeleine Sophie Barat's vision of education.

Adding to the year's commemorations, the annual alumni reunion took place in June. The Head of School, Sr. Anne Wachter, shared the words of St. Madeleine Sophie Barat: "Go on advancing; you are on the true road. Remember, it is not you who have taken it, but God who has placed you here. Walk trustfully, and may nothing in the world dishearten you. Give your heart, once and for all, to love and to trust." These words stayed with alumni of all ages and gave many of us a moment to reflect on our roots and the paths we have taken since leaving ISSH.



School entrance

Co-President 栗林敦子 (I, 83・宮37)

卒業してからこそ響く言葉がある



2025年6月、札幌聖心の正門のあった場所に作られた記念碑。ここに学校があった証



最後の生徒たちを見送り、靴箱が片付けられた玄関

二〇二五年は聖マグダレナソフィア列聖一〇〇年のお祝いと札幌聖心女子学院の閉校が重なる年でした。私にとっては改めて聖心の建学の思いを振り返る二年になりました。

Once a Sacred Heart Girl
Always a Sacred Heart Girl

そのような中、この言葉と出会いました。インターナショナルスクールでも大切にしているメッセージだと伺い、絆を感じると同時に、私たちにはいつでも帰るホームがあることを気づかせてくれました。この言葉に込められたメッセージを茂仁香会としても大切にしていきたいと思えます。

会長 米女美恵子 (茂16・宮38)

みこころ会

会長 村上直子 (み59・宮28)

毎年五月の運動会で、聖マグダレナソフィアを祝って初等科生は「神さまの愛を学校で教えてもらった子供たちは大きくならなりました」と、卒業生の人も「みなに自分がなつたことをお返しなくわけることしよう」と、卒業生の児島なおみさんが書かれた『聖マグダレナ・ソフィア・バラ』(偕成社)の祈りを唱える。

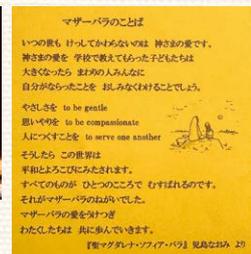
列聖一〇〇周年の昨年は、毎月二十五日前後にシスターの方からいろいろお話しを伺い、聖マグダレナソフィアは、より身近な存在となつていく。中・高等科生はシスターの方とパネルディスカッションを行い、さらに知識を深める事ができた。



聖心女子学院構内の聖マグダレナ・ソフィア像



2025年創立者記念日 シスターズパネルトーク



毎年唱えるお祈り

宮代会

会長 藏原由季子 (小み53・宮35)

宮代会は二〇二五年十月二十日に、般社団法人となりまして。その記念すべきお祝い会で、学校法人理事長のシスター大山は聖マグダレナソフィアにお祈りしてくださいました。毎回理事会でも始まる前に祈ります。私達は無意識のうちに聖マグダレナソフィアに神様へのお取次ぎをお願いしていると実感しています。二〇二五年度は六月の総会、九月の宮代祭、十二月の追悼ミサと無事に終えることができました。二〇二六年度は七月に第一回会員総会等を致します。宮代会の今後を、常にソフィアの目で見たらと考えることが大切だと思っております。「聖マグダレナソフィア我らのために祈りたまえ」



大学構内にある聖マグダレナ・ソフィア像



一般社団法人設立・創立者列聖100周年を記念して作製した切手。現在、宮代会事務局・オンライン宮代ショップにて販売

多様に、グローバルに、より良く生き抜く。



120周年となる2029年に、新しい校舎での学びが始まります。

聖心女子学院 SACRED HEART SCHOOL 初等科・中等科・高等科
2026年度入学試験・初等科1年 / 初等科5年転入・編入 / 中等科1年帰国生

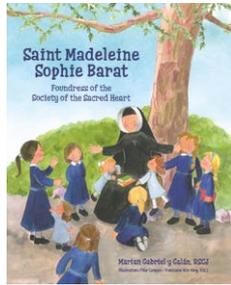


マザーバラ News

News 2

マザーの絵本が「JASH タオル」に

世界中で親しまれる、聖マグダレナ・ソフィアの絵本「Saint Madeleine Sophie Barat」。この表紙をモチーフに、日本の聖心の子どもたちがマザーの元に集うイラストをシェニール織のハンドタオルにしました。2026年秋頃から販売予定。乞うご期待!

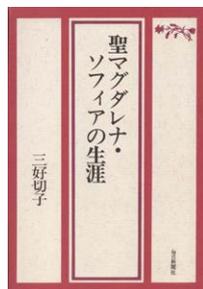


『Saint Madeleine Sophie Barat』
 原著はスペイン語。聖心会のSr.Marian Gabriel y Galán著、スペイン聖心の卒業生Pilar Campos Fernández-Figaresさんが挿絵を描いています

News 3

いまこそ読み返したい愛と勇気の生涯

フランス革命の前夜に生を受け、あらゆる階層の人々に、教育を通して聖心の愛を届けることに生涯を捧げたマザーバラ。学生時代に手に取った伝記を、読み直してみませんか? 日本に聖心会が誕生して70周年を記念して発行されたシスター三好切子による『聖マグダレナ・ソフィアの生涯』(毎日新聞社 1978年)のほか、100周年には、大学の安達まみ学長が翻訳(富原眞弓共訳)の『マドレーヌ=ソフィー=バラ』(フィル・キルロイ著 みすず書房 2008年)も出版されています。



シスター三好切子による伝記。最終章では、フランスから日本への経緯も綴られています

*いずれもJASHでの取り扱いはありません

News 4

ドメヌ・バラのワインで乾杯



ドメヌ・バラ シャブリ 2022。除草剤や化学肥料は使わないオーガニック栽培の葡萄からつくられています

マザーバラは1779年、仏はブルゴーニュのジョアニーに、酒樽職人ジャック・バラの次女として生まれました。そんな彼の地の、奇しくも同名ドメヌ・バラから、マザーをラベルにあしらったワインが2022年に発売されました。日本では現在入手できませんが、現地に行かれることがあれば探してみてください。

「聖心の子供は二人で天国に行つてはいけません」。聖マグダレナ・ソフィアのよく知られたこの言葉の真意は二人で神様のもとに行くのではなく、みんなも神様のもとにつれていってあげましょう」ということだと知ったのは随分後のことだったと思います。三年前、同級生の訃報が突然伝えられました。追悼ミサで何十年ぶりに旧友と再会し、そこから再び不二の輪が回り始めました。彼女が私を呼び戻してくれたのだと思いました。



不二聖心女子学院の聖マグダレナ・ソフィア像



追悼ミサの様子

小林みこころ会

マザーバラの「時代が変われば私たちも変わらなければなりません」というお言葉。この「変わる」の意味とは。不変の核となる理念を持ち、目的達成のための手段や姿勢は多様化する社会に合わせ変えていく。変化を好機と捉え、より良い世界を切り開いていく。そのための知性と行動力こそが私達が学んできた聖心の教育であると思ふ。「変化」は「未来」であり、次の時代へ受け継いでいくためには必要なもの。恐れることなく「変化」を受け入れ、より良い聖心の「未来」を築いていきたい。



小林聖心女子学院小学校にあるマザーバラの御像

小林聖心女子学院 小学校・中学校・高等学校

Come and See Dayでお会いしましょう

◆5月3日(日)学院祭Come and See Day開催
 ◆卒業生向けの最新情報を、小林聖心公式Instagramで公開中!

Fuji Sacred Heart School Middle School & High School

富士山の裾野に、『聖心の森』と茶畑に囲まれた21万坪の静謐なキャンパス。2027年には聖心温情舎の創立から75周年を迎えます。

学校法人聖心女子学院
 不二聖心女子学院
 中学校・高等学校

聖心女子大学

再び、学びの世界へ
 公開講座情報等、詳細は公式WEBサイトを
 ご覧ください。

Message

JASH名誉会長挨拶



聖心会NEANZ 管区
日本代表
シスター
棚瀬 佐知子
(宮 29)

昨年教会では、一年をかけて「聖年」を祝いました。そして、神への深い信頼こそが希望の源であるという確信を心に刻みつつ、混迷の度合いを深める世界の只中で、「希望の巡礼者」として歩みたいという思いを共有しました。

その聖年の最中、教皇レオ十四世は、執筆半ばで帰天したフランシスコの文書を完成させ、「ディレクシオーネ」(私はあなたを愛した)を発表しました。キリストの愛は、貧しい人々への愛において具現化されるものであるということを伝える教会の指針です。

私たちにとって、貧しいとはどういうことなのでしょう。貧困には様々な側面があり、「物的な生計手段を持たない者」の貧困、「社会的に疎外された者」の貧困、「道徳的」「精神的」「文化的」貧困がある。さらに、富を増大させながらも、公正性を増すことのない、経済の法則と並行して、「より微妙で危険な」新たな貧困が多く存在している。」との指摘に心が痛みます。

「イエスのみこころ」という名前をいただいた学び舎で過ごした私たちだからこそ、様々な意味での貧しさを担う人々に、キリストの愛のわざを行う旅人として、歩み続けたいものです。

JASH会長退任挨拶



ラウリア 佳子
(み 64・宮 33)

二〇二三年四月、コロナ禍から日常を取り戻す動きが始まると共に、私のJASH会長としての任期も始まりました。それから四年、今では各同窓会の総会もホームカミングもミサも、一つの場所に集い交流することができるようになりました。その間、三光会が休会を決議し、札幌聖心は六二年の歴史に幕を下ろしました。拠点を失った茂仁香会と休会中の真理茂会、そして三光会の大切な資料は、JASHが保管することになりました。またAMASCは、秋に八年ぶりの世界大会を開催の予定です。この四年間を振り返りますと、再生と再構築という言葉が相応しいように思います。いま、どの同窓会も時代に即した現実を見つめた同窓会のあり方を模索しています。四月からは赤松新会長の元、六〇年目を迎えるJASHが、さらになやかに各同窓会を纏めていく組織となりますようにと願っています。任期の最終年は、創立者マグダレナ・ソフィアの列聖二〇〇周年で、第二回「JASHのつどい」で皆様と共に祝いできたのは忘れえぬことでした。そのマザーバラのお言葉を皆様と分かち合い退任の挨拶を終わります。

「時は変わり、私たちが変わらなければなりません。そして、もの見方も修正しなければなりません。」

JASH新会長挨拶



赤松 久子
(み 60・宮 29)

この度、ラウリア佳子会長の後任を、現AMASCの呼びかけ「Courage and Confidence」に背中を押されてお引き受けいたしました。

ラウリア会長と役員のご尽力のもと、休会や閉校となった同窓会の活動基盤に道筋がつき、ホームカミングとして「JASHのつどい」が開催されました。コロナ禍を経て新たな歩みをはじめたJASHをその歴史とともに引継ぎ、微力ながら誠心誠意務めたく存じます。四年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

聖心会と繋がり、役員と委員会の皆様と協力して国内八同窓会の交流を支え、先を見据えた同窓会の在り方をご一緒に模索してまいります。また、世界三七カ国の聖心同窓会で構成されるAMASCとの懸け橋となり、海外の様子もお伝えできればと思います。

昨年は聖年であり、また聖マグダレナ・ソフィア列聖二〇〇周年の年に、「JASHのつどい」において聖心ファミリアの一体感を共有いたしました。今年十一月にコロナ禍で見送られたAMASC世界大会が八年ぶりにプエルトリコのボンセで開催される予定です。世界中の聖心卒業生が集う大会については随時JASH Webサイトでお知らせいたします。

AMASC 世界大会

第17回世界大会はプエルトリコで開催

会期:2026年11月12日~16日 会場:ヒルトン ボンセ ゴルフ&カジノリゾート

AMASC Web サイト▶



AMASCプエルトリコ大会
シンボルマーク

今年、世界聖心同窓会 (AMASC) 世界大会が、プエルトリコのボンセで開催されます。2018年のメリダ (メキシコ) 大会からコロナ禍を経て、実に8年ぶりとなります。今回は首長国である米国聖心同窓会 (AASH) が主催して、講演会や分科会などを通して意見交換を行い、親睦を深めます。詳細はJASH Webサイト(8頁下参照)でご案内いたします。大会の最新情報はAMASC Webサイトをご覧ください。

*2026年3月現在の情報です。随時、更新情報をご確認ください



前回、メリダ大会では世界各国から約300名が、JASHからは総勢32名が参加しました

聖心会 みこころセンター



共に学び、祈り
分かち合う場

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1
TEL・FAX : 03-6277-2561
E-mail : mikokoro@sacred-heart.or.jp
HP : https://www.m-sacred-heart.com/

学校法人聖心女子学院 生涯学習センター

「いつでも、どこでも、誰でも学べる」それが生涯学習です。2026年度は、金沢学院大学 蒨 際子教授をお招きし、曾野綾子をテーマにしたオンライン講座の開講(6月)を予定しています。



■ 役員会

毎月第1火曜(7月Zoom)全11回(8月以外)

■ 理事会

5月・9月・11月・1月・3月 第3火曜日(7月Zoom)

■ 第2回「JASHのつどい」開催(10月4日) 会場:聖心女子大学

・校歌・愛唱歌・聖歌の合唱(聖堂) 茶話会・バザー・展示(バーラー)

■ 第40回「JASHの日」Webサイト開催

・1986年AMASC東京大会について関連記事掲載(2026年3月16日~31日)
・役員会・姉妹校同窓会・委員会活動報告動画掲載

■ 情報の発信

・Webサイト、Instagramの運営:随時
・JASH紹介動画の貸出、JASHリーフレット配布:随時
・「JASHだより」35号発行(4月1日)、36号発行(2026年3月16日)
・卒業生インタビュー動画公開(吉成麻子氏、平田仁子氏)
・AMASCニュースレターへの寄稿

■ 姉妹校同窓会行事への参加

・総会:茂仁香会東京支部(5月10日) ドゥシェーン会(5月10日)
茂仁香会(5月31日) 小林みこころ会(5月31日) 宮代会(6月7日)
・バザー:宮代祭(9月6日) みこころ会幹事総会(9月20日)
小林みこころ会 東京支部同窓会(9月13日) クリスマスバザー(12月20日)
・追悼ミサ:みこころ会・三光会合同追悼ミサ(11月15日) 宮代会(11月18日)
・同窓会:小林みこころ会東京支部(9月13日)
・墓参:みこころ会裾野墓参(6月9日)
・一般社団法人聖心女子大学同窓会宮代会設立記念お祝い会(10月25日)

■ 学校行事への出席

・卒業式:聖心女子大学(2026年3月14日)

■ その他

・聖マグダレナ・ソフィア列聖100周年記念ミサ・茶話会(5月25日)
・新規グッズ「JASHハンドタオル」の制作準備
・JASHグッズ販売:オンライン(JASH Webサイト内)、バザー等随時
・古切手:整理随時、スペインへ発送(2026年2月)
・雑司ヶ谷霊園(聖心会ミッションナリー墓地)墓参(11月4日)

古切手を集めています!

AMASCは各国の同窓生から古切手を集めています。スペインの同窓会が古切手市場で換金して、AMASCの活動に役立っています。使用済み切手の周囲を5ミリほど残し、JASH事務室までお送りください。未使用切手も歓迎です

Members

2025年度 理事会メンバー

■ JASH名誉会長	Sr.棚瀬 佐知子 (宮29)
■ 聖心会JASH顧問	Sr.田中 玲子 (み44・宮13)
■ JASH会長	ラウリア 佳子(*) (み64・宮33)
■ JASH副会長	上野 愛子(*) (み58・宮27)
■ JASH副会長	謝敷 仁美 (み62・三英32・宮33)
■ JASH書記	佐野 由佳(*) (ド28・宮36)
■ JASH書記	高島 曜子 (ド27・宮35)
■ JASH会計	太田 里架(*) (小み56・宮38)
■ JASH会計	岡森 あかね (小み56・宮38)
■ JASH監事	上田 佳代子(*) (小み52・宮34)
■ JASH監事	佐々木 裕美子 (茂18・宮40)
■ 茂仁香会会長	米女 美恵子 (茂16・宮38)
■ みこころ会会長	村上 直子 (み59・宮28)
■ 語学校・ISSHアラムナイ Co-President	栗林 敦子 (I'83・宮37)
■ 宮代会会長	藏原 由季子 (小み53・宮35)
■ ドゥシェーン会会長	大年 寿子 (ド31)
■ 小林みこころ会会長	濱崎 由記子 (小み57)
■ 小林みこころ会東京支部長	濱田 京子 (小み62・宮44)
■ ホスピタリティ委員会委員長	小泉 マヤ (み62・宮31)
■ 資料委員会委員長	岡村 香 (み68)
■ JASH-AMASC委員会委員長	王 玲華 (み84・宮54)

(*)=任期満了による退任JASH役員



2025年度理事会メンバー

2026年度 JASH役員

■ JASH会長	赤松 久子(*) (み60・宮29)
■ JASH副会長	謝敷 仁美 (み62・三英32・宮33)
■ JASH副会長	大年 寿子(*) (ド31)
■ JASH書記	高島 曜子 (ド27・宮35)
■ JASH書記	鈴木 晴子(*) (み68・宮37)
■ JASH会計	岡森 あかね (小み56・宮38)
■ JASH会計	荻原 美保(*) (ド30・宮38)
■ JASH監事	佐々木 裕美子 (茂18・宮40)
■ JASH監事	小山 圭美(*) (茂19・宮41)

(*)=新役員

Activities

委員会活動

JASH-AMASC委員会

卒業生インタビューのYouTube配信も12本を終え、今年はゴールドマン環境賞受賞平田仁子さん(宮43)の動画を配信中です。

COOKBOOKのInstagramへの投稿もご好評いただいております。実際に集まってお料理を作る会も開催いたしました。AMASC世界大会に向けフェルトリコに関連した活動を企画中です。



年代を超えて和気藹々とした定例会での1枚

資料委員会

2025年10月開催の第2回「JASHのつどい」で、3月に閉校した札幌聖心女子学院の歴史と学校生活をたどる展示「札幌聖心女子学院62年のあゆみ」を行い、大勢の方にご来場頂きました。今後もよい展示をご覧頂くためにも、丁寧な資料整理、管理保存に努めて参ります。



2026年度資料委員会メンバー

ホスピタリティ委員会

2025年5月聖心会主催聖マグダレナ・ソフィア列聖100周年記念ミサ後の茶話会、10月JASHのつどい茶話会、12月聖心会クリスマスミサ後のココアサービスを担いました。来日客はおられませんでした。5月には姉妹校の生徒たちと交流できました。



ボランティア登録を通じてご協力をお願いしています

姉妹校はじまり物語

札幌聖心女子学院英語専攻科

「まりも」のように — 聖心の愛の動きの中で —

札幌聖心女子学院高等学校第一回生が卒業する前年、一九六八年に行われた聖心会の会議の席で、初代校長シスター吉川茂仁香は札幌聖心に英語専攻科を設置することの必要性を力説されました。札幌聖心創設時、学院で働くシスターズの中には北海道出身者が一人もおらず、学生、保護者、お取引先の方々を通して北海道の文化に接し、その魅力に強く惹かれ「道産子である学生を北海道に根ざした女性に育て上げたい」という創立者としての夢を心に抱かれました。北海道の文化とイエズスのみこころの精神とが結びつくことを、強く望まれたその思いが英語専攻科を開設させた原動力でした。

一九六九年四月、一八名の希望に満ちた二回生を迎えて二年制英語専攻科がスタート。少人数ながら、幅広い分野の沢山の素晴らしい先生方に恵まれました。日本初の心臓移植手術を執刀された和田寿郎先生の「公衆衛生学」、精神科医村田忠良先生の「精神衛生学」やイタリアに留学されていた村田先生のイタリア語講座は、高校生の受講希望者までおりました。

一九七二年二月には札幌オリンピックのため来道中の美智子妃殿下(当時)がご来校され、札幌オリンピックでは専攻科生が通訳ガイドをお手伝いしました。

一九七五年四月、シスター速水弥生の送別会に「七回生が集まり「まりも会」が誕生(一九九一年七月「真理茂会」と改称)。

一九八二年から夏季海外研修がスタート。この年は米国カリフォルニア州メソバークの聖心学院にお世話になりました。

一九八六年～一九九五年の九年間、札幌地区にある大学・短大のESSサー



授業風景



英語専攻科第1回卒業生

クルが主催する「ドラマフェスティバル」に連続参加し、ほぼ毎年金賞を受賞しました。

一九九七年三月に英語専攻科は休科となりました。

以下、英語専攻科設立当初の担任であり、「まりも会」の名付け親でもあるシスター速水弥生のお言葉です。

『同窓会が「真理茂会」という名を持つことは決して偶然ではないように思われてなりません。人々の心が不信と愛の欠如で傷ついている世の中にあつて真理を求め続け、惜しみない心、愛と真実をもって広く人々と関わっていくなら……：自分自身を、また周りの人々をより大きな友愛の円へと巻き込んでいくことでしょう。丁度、限られた場でありながら神の計らいによつて創り出される「まりも」のように。』

シスター吉川茂仁香が示された創立への熱意は、英語専攻科を大きく発展させるためではなく、たとえ少人数ではあつても、そのような強く美しい心を持つて生きる人を育てたかったからなのだと感じます。聖心の愛の動きの中で育まれた同窓生が、年月をかけて育つ深い緑のピロッド玉のまりもの如く、強くまろやかに生きていかれますよう心から祈っております。』

英語専攻科が皆様の中で永遠に在り続けますように。



第4代校長シスター竹井恒子



ドラマフェスティバルに連続参加、金賞を受賞(左右ともに)

真理茂会会長 山屋俊恵(真21)

最初に蒔かれた小さな種には、大きな希望が託されていました。
 姉妹校それぞれの、知ってるようで知らない創立の頃の物語を紹介します。

地域とのつながりを大切に他との共生を教育の旨として

不二聖心のはじまりを語るうえで欠かせないのは不二農園の存在です。この農園は明治のはじめ、禄を離れた江戸幕府の旗本七名が政府から官有地の払い下げを受け、ここ桃園の地を開墾したことに始まります。明治の中頃に茶の市況が暴落すると、この状況を見かねた実業家の鈴木藤三郎が農園を引き継ぎます。ところがその藤三郎も化学醤油の実用化に失敗し、農園の経営再建にあたったのが渋沢栄一と並んで明治末期の実業家として評される岩下清周でした。一九二四年のことです。

既に関西財界の二線を退いていた清周は、幽香夫人と共に桃園に居を移し、農園を「不二農園」に改称、果物や野菜の試験的栽培や温室栽培など先駆的な農園経営を行ったばかりでなく、農園従事者のための共同住宅や託児所までも整備し、地域の人々のために橋も架設しました。茶摘みの時期には近隣の女性が何十人も手伝いに訪れるなど、不二農園が地域に根付いた、アットホームなコミュニティであったことがうかがえます。



不二農園で働く人々



温情舎の創立者 岩下清周

また清周は、農園従事者や近隣の子供たちが四キロ先の小学校まで通学しなければならぬ実状を知ると、一九二〇年四月、私財を投じて小学校を設立します。立教大学在学中に受洗していた清周は、キリスト教の信仰による人々の救済を志し、「温情舎小学校」と命名しました。不二聖心の前身の誕生です。

初代理事長・校長には清周の長男でカトリックの司祭であった壮一が就任し、温かい

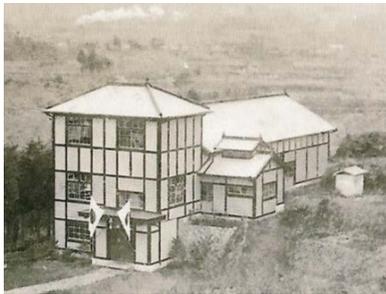
ヒューマニズムとカトリックの精神をもって自由闊達な教育が行われました。また壮一は、日本初のハンセン病の療養施設である神山復生病院の六代院長も務め、ハンセン病は遺伝するという間違った認識のもとに差別された患者の子供たちも温情舎小学校に受け入れ、健常者の子供と分け隔てなく愛情を注いで接したと言われています。

壮一の死後、不二農園は一九四五年に、清周の三女で日本の聖心会最初の修道女であったマザー亀代を通じて岩下家から聖心会に寄贈され、翌一九四六年には温情舎小学校の経営も聖心女子学院に移ります。また、学制改革によって一九四七年には温情舎女子中学校も開校されました。

一九四九年十月、共産党政権が中国で成立すると、上海聖心女子学院は閉校を余儀なくされます。そこで、一九五二年、上海から引き揚げてきたアイルランド人のマザー エリザベススタフを院長として八名の修道女からなる修道院が裾野に開設されました。同年、校名も「聖心温情舎小学校・女子中学校」に改称され、この年を不二聖心の創立年と定めています。

不二聖心では、今でも有志による近隣での奉仕活動が行われ、多様な地域から集まった生徒たちが共に学んでいます。地域とのつながりを大切にし、他との共生を教育の旨としてきた清周と壮一の想いは、百年経った今でも不二聖心の教育の根底に確実に息づいているのです。

参考資料…「われらが学び舎 温情舎 創立八十周年記念誌(二〇〇二年三月二十日発行)」「不二聖心女子学院 創立五十周年記念誌(二〇〇二年発行)」



温情舎小学校



修道院長マザーダフのお茶摘み



岩下壮一神父と温情舎の生徒たち

札幌聖心女子学院の制服



紺や黒の制服が主流だった1960年代、70年代の札幌で、茶色の制服は際立っておしゃれに見えました。

左から/ダスターコート:開校当時(1963年)から着用
上着とスカート:開校当時の第一正装
オーバーコート:1980年頃~閉校時のダブルコートに変更されるまで
冬のスタイル:オーバーコートは1980年代まで ベレー帽とストラックスは1970年代まで 1960~70年代登下校時のみスカートの下にストラックスの着用が許されていた

資料委員会では寄贈していただける資料を募集しています
JASH Webサイトの「お問い合わせ」からご連絡ください

札幌聖心女子学院 旧校舎にどうもメモラビア

2025年3月に札幌聖心女子学院は閉校しましたが、敷地・校舎を譲渡した学校法人北星学園の一角に、アーカイブ室があります。「お宝写真館」のコーナーと合わせて、思い出の数々をご覧ください。

*

札幌聖心女子学院の旧校舎に、様々なメモラビアを収蔵したアーカイブ室が北星学園様のご厚意により設置されました。場所は地下1階、調理室奥のスペース。歴代の制服や鞆、多数の写真が展示され、1990年代以降の卒業アルバムや文集も手に取って見ることができます。

2026年4月以降のご見学については、現時点(2025年12月)で案内方法が未定となっております。詳細が決まり次第、茂仁香会 WebサイトおよびSNSでお知らせいたしますので、お約束のないご訪問はお控えくださいませ。茂仁香会は卒業生がかつての母校を訪れ、思い出に浸れる場として同室の継続性を確保するため、今後の在り方や案内形式を関係各所と協議してまいります。

茂仁香会書記 富田 昌子(茂27)



第1回生から第59回生までの卒業写真が一堂に



校門から外された校名銘板



寄宿舎で使われていた台車の裏には、卒業生の寄宿愛あふれる寄せ書きがありました

許可なく学校敷地に苦入ることは遠慮下さい
ご用の多分持参をお願いします
札幌聖心女子学院

通学生が毎日のように目にしていた注意書きの看板も保存



本棚には文集『らいらっく』や卒業アルバムが収められています

Activities

海外生活が決まったら JASHにお問い合わせを

日本の聖心同窓生は、世界各地で暮らし、活動しています。その中でも、下記の地域には「JASH会員の集い」があり、親睦を深め、助け合う場となっています。JASHでは、それぞれの地域の代表者の連絡先を管理しています。また、宮代会海外支部(シンガポール、ワシントン、南カリフォルニア)でもJASH会員と一緒に活動しています。海外生活を始める方は、渡航前にぜひ、JASH Webサイトの「お問い合わせ」からご連絡ください。各地とお繋ぎいたします。
*各地の活動報告もWebサイトに掲載しています。

■海外「JASH 会員の集い」の所在地

アメリカ	ニューヨーク
合衆国	サンフランシスコ/バイエリア
	シカゴ
	アリゾナ
英国	
フランス	パリ
ドイツ	
オーストラリア	シドニー
タイ	バンコク



バンコクの集い(JASH Webサイトより)

Attention

「決算報告書及び予算」の 閲覧方法が変わりました!

2024年度より、JASHは決算期間を4月1日~3月31日に変更したため、「決算報告書及び予算」を「JASHだより」には掲載しないことになりました。閲覧ご希望の方は

メール jash@u-sacred-heart.ac.jp
FAX 03-3407-0671
ハガキ 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1
聖心女子大学内 JASH事務室宛

いずれかの方法で、お名前、所属同窓会回生、住所、ご連絡先を明記のうえ、ご連絡ください。お送りいたします。

■JASH ボランティア募集

JASH主催のイベントの手伝い、翻訳、通訳(英語・仏語・西語ほか)など、活動のお手伝いをしてくださるボランティアを常時募集しています。

申し込みはJASH Web サイト「JASHボランティア募集」よりどうぞ

真理茂会・三光会の名簿について

現在休会中の真理茂会、三光会の会員名簿は、JASHが責任を持ってお預かりしています。住所変更、逝去等のお届けをご希望の場合は、JASH Webサイトの「お問い合わせ」からご連絡ください。



JASH Web サイト [jash316](#) 検索
JASHに関する情報をいち早く掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



Instagramは
こちら ▶▶▶



発行日 2026年3月16日
発行所 日本聖心同窓会(JASH)
発行人 ラウリア佳子
編集 JASH役員
住所 東京都渋谷区広尾4-3-1
聖心女子大学 JASH事務室
F A X 03-3407-0671
制作 (株)梁プランニング

